

大阪 保険医新聞

大阪府歯科保険医協会 敬告
4/25 大阪府 志岐 敬
大 阪 市 浪 速 区 幸 町 1-2-33
電 話 (06) 6568-7731 (代表)
http://osk-net.org/
2011年第1073号 ● 定価・年間10,000円 月1,000円
(毎月5、15、25日発行) ● 1977年5月23日第三種郵便物認可



歯がぐらぐらという被災者の口腔を診る
山上紘志氏＝9日、宮城県・石巻中学校

日本大震災 東大

健康悪化防止と口腔ケア

「歯の調子はいかがですか。お口のことでお困りなことはないですか」。東日本大震災から1カ月になろうとする4月9・10日、山上紘志副理事長（保団連副会長）を団長とする大阪歯科・兵庫・京都歯科・和歌山・福岡歯科各協会の歯科医師5人と医師1人、歯科衛生士1人と事務局4人は、いまだ避難所生活を余儀なくされている被災者の健康悪化を口腔ケアにより防ごうと宮城県内の避難所を訪れた。支援チームは被災者一人ひとりに声を掛け、悩みや要望を聞き、歯ブラシや歯磨き剤、口腔洗浄剤や義歯洗浄剤などを手渡した。

誤嚥性肺炎を予防

宮城県石巻市・名取市の避難所へ

訪問した避難所は、石巻市の石巻中学校（避難人数約600人）と石巻高校（同300人）、名取市の文化会館（同414人）。東日本では、いままなお余震が頻りに続き、被災者は余震の不安や生活の心配などのストレスを抱えながらも不満を表すことなく、我慢の生活を送っていた。山上氏は「大阪から来ました。痛いところ、困ったことありませんか」と声を掛ける。「歯がぐらぐら」と話してくれたのは60歳代の男性。歯周病で抜歯を要する状態だった。また、50歳代の男性は、暫間被覆冠が取れたまま放置されており、応急処置を施し、歯科医院に行くようにながした。また、口内炎にかかっている被災者にはステロイド系薬剤と含嗽剤を渡し、喉の調子が悪い場合にはうがい薬を渡した。巡回は3チームに分かれて取り組んだ。「入れ歯が当たって痛いという人や、ゆるくて落ちてくる人に調整するだけでもQOLはだいぶ向上する」（歯科医師・加藤擁一氏、兵庫）、「入れ歯を無くしている人が多い。近くの医療機関の開設一覧と送迎システムが必要」（同・大木継吉氏、福岡歯科）、「歯科技工士や歯科衛生士と連携した支援が必要」（同・杉山正隆氏、福岡歯科）など、感想を述べた。医師の中津正三氏（兵庫）は、「歯科ニーズの高さを感じた」と語った。また、避難所で10人程血圧測定し、正常値は1人で、3人以上が200mmHgを超過。1週間前は正常だった人も150mmHgになっていた。食事は炭水化物が多く塩分はつきもの。早急な食事の改善が必要とした。

被災者に寄り添い 希望と安心感を

山上紘志副理事長

石巻市・名取市の避難所を訪問し、帰阪後しばらくPTSD（心的外傷後ストレス障害）に陥るほど現地の惨状はひどかった。避難所の劣悪な環境、毎日続く余震そして放射能被ばくの恐怖にさらされている住民の生活と心の安堵は、これらに耐えるにはもはや限界である。住民のPTSDの程度は私たちとは比較にならないほど深刻だ。

災害発生時に真っ先にすることは、負傷者、基礎疾患のある者として障がい者のトリアージ（治療優先順位の選別）である。震災から約1カ月後に訪問した3避難所では、これは終わっていない重症者や障がい者はいなかった。避難所での歯科処置は2次、3次のものに限定される。具体的にG.A.A.A.（口内炎などの処置、誤嚥性肺炎予防の口腔ケア、義歯の調整・洗浄・安定化など）である。阪神淡路大震災を教訓として、全国からハブラシの供給は十分であった。各種サイズの歯間ブラシの住民要求が高かった。口腔ケアを保障するためには、上下水道の確保が大事だ。しかし、

被災者に寄り添い、希望と安心感を。国が緊急に責任を持つてやるべきこと。仮設住宅を緊急に解消すること。仮設住宅に隣接した仮設診療所の設置と診療車の配備だ。喪失した義歯の再製や口腔ケアの継続のために歯科医療関係者の派遣は今後も続ける必要がある。

余震のたびに復興作業が中断している現状だ。口腔と直接・間接的に関わる解決すべき課題がある。全国からの救援物資に豊富なお菓子があつた。そのため子どもたちは四六時中お菓子を食べて放題である。また炭水化物に偏った食生活も問題である。糖尿病や肝臓病の避難住民の食事はいまだにできていない。

近所の親戚との電話が不通になっていた早朝に協会のG氏が見舞いの電話を真っ先にくれた。2番目が和歌山の同期生から「不自由があれば何でも言ってくれ」と言うので「灘の酒蔵は全滅で一滴も無い。地酒でも送ってくれ」と言うので「元気そうぞ安心した」とミカンを送ってくれた。

復興めざし社会保障充実へ

定期総会への参加をお願いします

伊津進弘理事長



ご参加くださいますようお願いいたします。東日本大震災で多くの方々の命が奪われ、また被害に遭われました。ご冥福をお祈りすると共に、1日も早い復興を願っています。協会が募集した震災救援募金は、多くの会員のご協力により、たくさん募金が集まり感謝いたしております。

復興には大変な日数と努力が必要です。社会生活も大変苦しい状況に追い込まれ、生活全般の改革を迫られることも覚悟しなければならぬと思えます。2008年の世界金融危機以来、日本経済はさらなる悪化をたどっています。大企業は内部留保や役員報酬を増やす一方、非正規雇用の激増や

勤労者賃金の低下などにより所得格差が一層広がり、国内需要の不足によるデフレスパイラルから抜け出せません。累積された国と地方の長期債務残高が869兆円になり、多額の借金を将来に残しています。さらに今回の大震災の影響や復活への道筋がいまだ見えません。復興支援や原発事故の放射能の

針から変更はあるのか、原発推進による今までのエネルギー政策の方針の変更はあるのか、大変注視するところです。協会は国内産業・地域経済の活性化で日本経済の復活と社会保障・診療報酬の充実で医療経営の改善を提案しています。来期に向けて歯科医療・医院経営を改善するため、どのように活動するか、活発な討議を願っています。多くの会員の貴重なご意見を集約するために、皆さまの総会へ参加をお願いします。

第50回定期総会

5月29日(日)午後2時～7時45分
(於・ホテル大阪ベイタワー)
◇総会議事：①情勢、09・10年度活動まとめ、11・12年度活動方針案②決算報告案③収支差額処理案④11年度予算案⑤事務局長、名誉役員承認の件
◇記念講演：「口から見た“全身の健康”・長寿への提言」講師・米井嘉一氏（同志社大学大学院生命医科学研究科アンチエイジングリサーチセンター教授）
◇第50回定期総会・創立40周年記念レセプション

第47回通常評議員会

5月21日(土)午後4時～6時25分
(於・M&Dホール)
◇議案：①情勢、09・10年度活動まとめ、11・12年度活動方針案②決算報告案③収支差額処理案④11年度予算案⑤理事、監事選出の件

5～14面に第50回定期総会議案(情勢・まとめ・方針)

【お知らせ】本紙5月5日付は、ゴールデンウィークに伴って印刷・発行体制の都合により休刊します。

震災救援募金にご協力を

協会では、被災者支援のための救援募金を受け付けています。募金は、被災地の自治体や日本赤十字社に届けます。お問い合わせは、協会事務局まで。

歯界

阪神淡路大震災との共通項は地震と火災だけで、広域である点と天津波と原発が加わって比較にならない大災害である。にもかかわらず自分の直接経験から「阪神淡路」を思い起こしてしまう。